



第176号

編集発行

愛知学院大学
事務局 庶務課

☎ 470-0195

愛知県日進市岩崎町
阿良池12
電話 ☎ 0561-73-1111(代)

愛知学院大学大学院

薬学研究科

医療薬学専攻(博士課程)

平成24年4月開設 設置認可申請中

今年度完成年度を迎える薬学部医療薬学科(6年制)に、平成24年4月、新たに薬学研究科医療薬学専攻を設置すべく文部科学省に認可申請を提出した。

修業年限は4年、入学定員は10名。

新設の薬学研究科の目的は、医療分子薬学分野(天然薬物作用学、生体機能化学、環境衛生学、免疫細胞情報学、分子薬効解析学)の研究者と医療機能薬学分野(病原微生物学、化学療法学、医療薬理学、神経薬理学、疾患病態治療学)の研究者とが自由に高度・最先端の薬学研究を共同で実施するとともに、独創力と自立心を備えた薬学研究及び高度の技術と知識を備えた高度な専門薬剤師の養成を目的とし、設置の趣旨として、

一、新しい時代の要求に対応でき、基礎薬学と医療系薬学を包括した総合的な学術を修得し(博士力)、豊かな創造性と着実な実践力の蓄えを基に、生命科学、医学、薬学、医療薬学の研究マインドの修得の下で、医薬品作用、生体機能解明、感染症予防、薬物治療、薬剤疫学の推進という薬学の理念を研究と実務の両

面において追究する人材を養成する。

二、国内外の研究の流れに迎合することなく、自らが考え・判断し、薬学・医学・医療薬学分野で疾病に苦しむ患者の諸問題の解決に新しい課題を見つけそれを解決・改善することにより能力を発揮する新時代の薬学・医療薬学を先導する人材を育成する。

ことを目的とする。

設置の認可は、平成23年11月には文部科学省より通知がある予定。

横井 英夫 元総合政策学部教授 瑞宝中授章受賞



横井英夫元総合政策学部教授が、長年の教育研究功勞により瑞宝中授章を受けた。同教授は昭和7年6月16日生。昭和35年名古屋大学大

院理学研究科数学専攻博士課程単位取得満期退学。名古屋大学教養部教授、名古屋大学大学院人間情報科学研究科教授を経て、平成8年からに本学教養部教授として赴任され、平成10年情報社会政策学部(現総合政策学部)を新設に伴い、同学部教授、情報社会政策学部の初代学部長を務められた。専門は代数学で代数的整数論の研究などで実績を積み上げた。本学では数的理論に基づき数学だけでなく情報学も教えられた。

平成23年度

特待生選任式

平成23年度の本学特待生150人が6月8日の代表教授会で決定し、選任式が次のとおり行われた。

日進キャンパス

6月21日(火)

文学部・商学部
経営学部・法学部
総合政策学部
心身科学部

楠元キャンパス

6月23日(木)

12時15分から

歯学部

6月30日(木)

12時50分から

薬学部

この特待生制度は、前年度の学業成績が優秀であるとともに、人物が良好であること

などが受賞の対象となり、奨学金として年額30万円が給付される。

本年度は、文学部33人、商学部17人、経営学部20人、法学部17人、総合政策学部13人、心身科学部21人、薬学部14人、歯学部12人、外国人留学生3人の以上150人が特待生として選出された。

各代表者に、大野薬人学長から特待生証書が手渡された後、「この賞は平素の賜であり、これからは学生の自分たるを忘れることなく、勉学にそして学生生活の上でも他の模範となるよう精進していただきたい。」と挨拶があった。

その後、黒神学生部長の挨拶に引き続き、文学部宗教文化学科4年横江佳奈さんが謝辞を述べ閉式となった。



就任挨拶

後援会会長に選任されて



後援会会長

島田 雄仁

去る5月14日の後援会総会に於きまして、会長という要職をお引き受けさせて頂くこととなりました島田でございます。この教育効果の向上に大いなる貢献をさせていただきます。本年度も後援会は大学と共同して各種事業の企画や助成を、会員の皆様のご協力をより行っております。

愛知学院大学では昭和28年に於きまして、会長という要職より後援会が発足され、永年の活動費を助成いたしました。この教育効果の向上に大いなる貢献をさせていただきます。本年度も後援会は大学と共同して各種事業の企画や助成を、会員の皆様のご協力をより行っております。

三、課外活動・厚生関係助成
運動部及び文化部の活動費を助成します。

愛知学院大学は、曹洞宗が設立母体で「行学一体」の人格育成と「報恩感謝」の社会人養成を教育理念としており、50万㎡の緑あふれる日進キャンパス・楠元キャンパス・末盛キャンパス。そこで1万3千人の学生が勉学に励む中部地区最大規模の伝統ある名門校です。この様に長い時代に亘り社会の要請にこたえる大学を築きあげることが出来る様に準備をしております。そして会員の皆様から長をばじめ教職員の方々全員の不断の努力の賜と深く敬意を表すものであります。

四、施設関係助成
楠元キャンパス4号館が竣工いたしましたので、遅れておりました食堂の面積・質の向上のための助成、また歯科・内科診療等の保健センターの充実助成をいたします。

今も昔も赤い血が燃え、赤い血が悩みます。そして若い血が冒険を好み、若い血が則を乗り越えます。我々両親は子供達の人間力と社会力の修得を願い大学と密に連携し、卒業し社会に巣立つ日まで、家族教育と大学教育に携わらなければなりません。

二、教育関係助成
図書2万冊の購入の助成、また年2回全学生会に成績表を送付いたします。またイギリスを始め海外の大学への語学研修に対して助成をいたします。本年度は特別に東日本大震災のボランティア活動をするグループが結成されました。

後援会はこの様に子供達がより良い環境で充実した学生生活を送ることが出来ますよう力を賜りますようお願い申し上げます。

「多発性骨髄腫に 対する 集学的治療講座 (寄附講座)」 歯学部を設置

平成23年7月1日付けで歯学部、「多発性骨髄腫に対する集学的治療講座」を寄附講座として設置された。歯学部としては、現在、設置され

ている「口腔先天異常遺伝学・言語学講座」に次ぐ二つ目の寄附講座の設置。
多発性骨髄腫に対する集学的治療講座は、財団法人応用

生化学研究所からの寄附金により設置されたもので、開設期間は平成23年7月1日から平成26年6月30日までの3年間。
同講座では、次の教育研究を実施。

一、多発性骨髄腫治療のための新規薬剤の探索研究
二、多発性骨髄腫の治療に伴い発生する顎骨壊死 (osteonecrosis of the jaw, ONJ) の原因究明と予防：多発性骨髄腫患者の8割に認められる溶骨性病変の治療薬であるビスフ

オスフォネート製剤(破骨細胞のアポトーシスを誘導することにより骨吸収を抑制する薬剤)とdenosumab(破骨細胞の分化を促進するRANKL活性を抑制するモノクローナル抗体)は、ONJを起こすことが知られており、その原因については齦歯、歯周炎等の歯科口腔疾患の存在と抜歯等の歯科口腔外科手術に求める傾向があるが、これらの既往のない患者にもONJが発症することがあり、歯科医と共同してONJの原因追及と共に、発症予防のための啓蒙活動を行う。

三、歯学部及び薬学部で開設されている「内科学」の血液内科疾患に関する講義
寄附講座教員として、特任教授に清水一之氏(前名古屋市長)が就任し、関連分野と協同してこの分野の研究推進及び医療を担う人材育成を行います。

著書紹介

『キーワードコレクション 社会心理学』

二宮克美・子安増生(編著)

さまざまな人や組織とかわり、つながり、ときにあらそいながら、私たちは生活している。対人場面や社会的な状況における人間の行動や、集団・組織の振る舞いを探求する社会心理学のエッセンスを50のキーワードでわかりやすく解説した書である。

編者ならびに執筆者として、総合政策学部の二宮克美教授がかかわっている。また、経営学部の松原敏浩教授も執筆者として参加している。

2011年6月30日初版。
新曜社刊。2,400円+税。



平成23年度 科学研究費 配分決定

文部科学省は、このほど「平成23年度科学研究費補助金」(以下、科研費)の配分について、機関別件数及び配分額等を発表した。科研費は、人文・社会科学から自然科学まで全分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究」を対象

とする「競争的資金」である。今年度本学は74件の採択があり、配分額は1億2,970万円(直接経費配分内定額)で、本学がこの地域で活発な研究活動をしている証でもある。今年度の内定一覧は下記の

平成23年度科学研究費補助金・科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)配分一覧(件数 74件、直接経費配分額 129,700千円)

研究代表者氏名	所属学部	職	研究種目	内定額(千円)	研究課題名
千田 彰	歯学部	教授	基礎研究(A)	6,800	MIコンセプトに基づいたレーザー歯科治療の新たな展開
中西 守	薬学部	教授		2,400	免疫・神経・内分泌の分子イメージングと医療への展開
齊藤 満	心身科学部	教授		1,600	交感神経系と液性系による統合的な適応調節機構に及ぼす身体トレーニングの影響
大澤 俊彦	心身科学部	教授		4,100	過剰な炎症反応に由来する酸化ストレス調節機構解析と抗酸化食品因子による抑制
横田 充弘	歯学部	客員教授		4,000	地域住民を対象とした生活習慣病の個別化予防アルゴリズムの検証的疫学研究
中村 洋	歯学部	教授		3,600	安定型マトリックスメタロプロテナーゼ3を用いた新しい歯髄炎治療薬の開発
河合 達志	歯学部	教授	基礎研究(B)	6,900	多糖質-骨形成因子複合化3次元造形スキャフォールドによる骨誘導性移植材料の開発
南 克浩	歯学部	講師		2,800	発達途上における口腔上皮細胞の増殖と免疫調節活動評価指標に関する研究
夏目 長門	歯学部	教授		1,500	モンゴル人の乳製品多量摂取による口腔上皮細胞増殖抑制効果に関する研究
新美 照幸	歯学部	講師		2,100	ベトナム戦争による結核が先天異常ならびに肺がん発症に及ぼす影響に関する調査
前田 初彦	歯学部	教授		4,600	新世紀に向けたアジアにおける口腔病理学の標準化と専門医化動向に関する戦略的調査
吉田 和加	歯学部	助教		2,200	ベトナム・メコンデルタの母子および家族における口腔癌のHPV感染の総括的調査
加藤 一夫	歯学部	准教授		700	定量的層別マッピング法による口腔バイオフィルムへの介入効果の評価に関する研究
梅川 正美	法学部	教授		500	テロ時代における国家秩序構築に関する日英比較研究
林 淳	文学部	教授		1,100	近世の寺社と創設的宗教者による「徳」・配札活動に関する研究
梶浦 雅己	商学部	教授		1,400	コンセンサス標準化のイノベーション研究-先端技術の普及と収益化の実証分析-
向 伊知郎	経営学部	教授		700	企業集団の財務報告基準の理論的整合性と実務適用可能性
河村 好雄	薬学部	教授		1,000	腸内細菌叢の解析解析法の開発と潰瘍性大腸炎原因菌の特定・有効抗菌薬の探索
内藤 崇孝	歯学部	准教授		500	放射線治療における歯科インプラント周囲の線量シミュレーション
成瀬 桂子	歯学部	准教授		1,000	歯髄幹細胞を用いた神経再生性神経障害に対する再生医療
南 克浩	歯学部	講師		500	人工口蓋床による口腔上皮細胞増殖抑制効果の定量的評価
後藤 滋巳	歯学部	教授		1,200	特異的破骨細胞抑制剤を用いた効率的骨の移動と歯周病予防システムの開発
石原 裕一	歯学部	准教授		500	歯周病関連細菌感染モデルマウスに対するIL-17A/IL-17Rシグナルの影響
森田 一三	歯学部	講師	基礎研究(C)	800	ソーシャル・キャピタルと口腔の健康要因に関する研究
末田 香里	心身科学部	教授		600	大豆製品・乳製品の食後高血糖抑制効果
野呂 志司	文学部	教授		700	多読指導が単語認知処理と読解処理の自動化に及ぼす影響
菊池 一隆	文学部	教授		900	第二次世界大戦における地球規模での軍需の動向と構造研究
北住 輝一	総合政策学部	教授		500	戦後ドイツ連邦体制形成における外圧性と内発性の交錯・融合
杉山 知子	総合政策学部	准教授		600	グローバル化時代のローカル・アクター・ラテンアメリカの人権NGOの発展と市民社会
竹内 信仁	総合政策学部	教授		600	地方自治体の財政改革の効率性・行政効率と財政政策・財政改革
辰巳 寛	心身科学部	講師		500	失語症患者と家族介護者に対する心理社会的教育介入プログラムの開発
山本 浩充	薬学部	准教授		1,200	バイオフィルム感染治療、歯周病予防のための表面修飾ナノ粒子薬物キャリアの設計
根本 和佳	歯学部	准教授		700	咀嚼・咬合が顎関節に及ぼす影響
菅原 利夫	歯学部	客員教授		1,000	パルカンが関与する上皮下基底膜消失から検討した口蓋裂発生メカニズムの研究
宮澤 健	歯学部	教授		1,200	矯正学的固定装置のための生体内吸収性メッシュ状インプラントシステムの開発と臨床応用
松原 達昭	歯学部	教授		900	歯周病がメタボリックシンドロームに及ぼす直接作用の解析
秋本 昌士	商学部	講師		200	成熟市場における新規参入ブランドの属性削減および異質性価値低減の効果
田淵 雅子	歯学部	講師	若手研究(B)	1,100	骨のカップリング機構を応用した薬理学的骨の移動のコントロール
近藤 久典	歯学部	助教		1,500	活性酸素誘導性破骨細胞活性化シグナルへのASK1関与の検討
尾関 伸明	歯学部	講師		800	3種類の幹細胞を用いた象牙質・歯髄複合体再生治療法の開発
稲本 京子	歯学部	非常勤助教		800	Er:YAGレーザーの根管治療への応用
林 達秀	歯学部	講師		1,100	組織化骨芽細胞シート-rhBMPによる骨再生系の確立
藤原 久美子	歯学部	非常勤助教		900	口蓋裂発生メカニズムとフィロパティ-口蓋裂予防としてのインシートの影響-
川口 美穂津	歯学部	助教		900	骨形成因子徐放性を有する矯正用セラミックスミクスクリューインプラントの開発
遠藤 哲也	教養部	講師	新学術領域研究 研究領域類型	15,500	哺乳類における四肢再生系の構築
谷川 真一	文学部	准教授		1,300	中国文化大革命のダイナミクス
夏目 長門	歯学部	教授	研究成果公開促進費(学術活動)	3,600	Support for Cleft Baby
中村 稔	教養部	講師		1,300	日本金世白話小説受容の研究
大羽 恵美	特別研究員(RPD)		特別研究員奨励費	600	中央ベトナムにおける仏塔の研究
有馬 幸子(中村幸子)	文学部	准教授		2,200	法廷通訳者の語彙・表現が心証形成に与える影響に関する研究
藤原 正喜	教養部	教授		500	視覚障害学生の英語発音指導のための点字式発音記号や音調符号および教材開発
田中 淳子	法務研究科	教授		1,000	所有権界・境界と筆界をめぐる総合的研究-民法・手続法・実務による総合的アプローチ
丹下 博文	経営学部	教授		900	物流・ロジスティクス発展と中国への学術的な応用可能性に関する研究
岡本 真一郎	心身科学部	教授		1,500	ミス・コミュニケーションの社会心理学的研究
下村 淳子	心身科学部	講師		600	退職後教育活動を活用した新規採用者研修の課題と今後の展望
近藤 信太郎	歯学部	准教授		1,500	歯根類の下顎骨にみられる骨形成の形態学的研究
井上 誠	歯学部	教授	基礎研究(C)	2,000	天然由来レチノイン酸受容体アゴニストの探索と免疫・アレルギー疾患への応用
吉田 亮彦	薬学部	教授		1,700	カチオンチャンネルタンパク質の分解阻害とその破綻による細胞異常
吉田 康夫	歯学部	准教授		2,300	歯周病原細菌由来アミノ酸代謝物によるバイオフィルム形成能と病原性への影響の解明
西川 清	歯学部	講師		1,400	共有ペクターを用いた難治性口腔癌細胞への遺伝子導入・発現系の開発
鈴木 康弘	歯学部	准教授		1,600	革新的な生物発光イメージング法によるMMP-2関連タンパク質の分泌動態解析
有地 淑子	歯学部	講師		2,800	咀嚼筋痛の治療効果予測のための定量的超音波elastography診断法の確立
中田 和彦	歯学部	講師		800	ポリリン酸を用いた新しい医療用材料の開発
中村 好徳	歯学部	准教授		2,100	歯科用磁性アタッチメントの国際標準化の創成
栗田 賢一	歯学部	教授		2,300	歯髄幹細胞を用いた新しい末梢神経麻痺の根治的治療法の開発
井澤 幸子	心身科学部	准教授		700	高齢者包括的栄養評価の介護福祉施設入所中の要介護高齢者の生命予後因子としての意義
芝 奈穂	文学部	講師		500	リージェンツ・パークの成立過程を通してみる19世紀英国都市公園の発展
森田 健二	薬学部	講師		1,000	メタゲノムアプローチによる多剤耐性細菌菌株の探索・排出ポンプ欠損株の活用
片野 貴大	薬学部	助教		2,000	ポリアミントランスポーター群を標的とする新規抗がん剤ODSに関する基礎的研究
小谷 仁司	薬学部	助教	若手研究(B)	2,400	核内受容体活性化を基礎とした漢方方剤における厚朴配合の意義の解明
鈴木 裕可	薬学部	助教		1,600	黄連含有インキリノリンアルカロイドの糸状体腎炎治療候補薬としての応用研究
河合 利浩	歯学部	講師		1,100	白金ナノコロイドの歯質接着への応用
高前 真	歯学部	講師		2,700	下顎運動を反映した顎関節の咬合とその機能に関する検討
井村 英人	歯学部	助教		1,200	口蓋形成後の口蓋裂発生メカニズムについて-MEOX2遺伝子に着目して-
				129,700	



夏休みを迎えて

教務部長

竹市 良成

4月から始まった春学期、15週終え春学期の定期試験も終わり、いよいよ夏休みが始まると思ってしまう頃だと思えます。この春学期が始まる直前の3月11日に、我々日本人がかつて経験したことのない大震災を東日本の方々が被りました。この日以来、メディアを通して被災地の様子が絶えず伝えられ、その光景を見るにつけ日本人の心が痛めてみえます。

この災害は科学の進歩を自慢し科学によってややもすれば人間は何事も出来ると傲慢にも思っていた我々人間に痛烈な反省を促したものと受け取っています。原子力発電所は科学の先端を行くもので、安全であると信じさせていた認識をも一瞬にして破壊してしまい、人間の非力さをまざまざと見せつけました。

メディアを通して伝えられる被災の状況と、日本中で被災した人々への温かい支援の輪が日に日に大きく、強くなることを知らされるにつれ、私にも何か役立つことはないかと思う毎日です。こうした災害時に国が陣頭に立って支援活動することは当然の事ですが、ボランティアの人々の活躍は目を見張るものがあり、日本人の心意気を熱く感じます。

この原子力発電所の事故によって今年の夏は節電が合言葉にまでなっています。今まで、ややもすれば無制限に(無節度と言った方が適切かもしれません)エネルギーを消費



夏休みに向けて

学生部長

黒神 聡

大地を切り裂いた大地震、尊い多くの生命と人々の営みを一気に薙ぎ倒した巨大津波、故郷をも奪い消し去ろうとしている原発事故は、私達の精神、生き方をまた大きく揺さぶりました。

この大地震で、自らの生命の危険を省みず、人を救助するため、あの巨大津波の犠牲になった可能性のある私達の大切な学友の一人がいる。四ヶ月経たずとも行方不明・・・、痛感の極みであります。

それだけに、日常の中の普通の生活がこれほどいとおしく思われたことはありません。普段の生活の送れること自体、私達は感謝しなければならぬことだと思います。

さて、7月22日から29日までの春学期定期試験は、自らの力を真正面から存分に発揮できましたか。学生生活の中で当たり前の普通の営みである定期試験とはいえ、されど卒業に関わる重要な試験というところであれば、自らの誇りと自負心にかけて、正々堂々と立ち向かってくれたことと信じます。定期試験終了後に予定されている学生委員会、不正行為を行った者が一人も出ていないことを切願しています。

この定期試験が終わると待望の夏休み・・・。夏休みは、比較的自由な時間を持つことができます。この自由な時間こそ、悩みや希望を持ちながら自らの可能性を求める青年期には必要不可欠な要件であると思えます。人生の節目を

も作り、創造を生み出す「きっかけ」になる可能性がおおいにあります。しかし、学生生活にとって重要な夏季休暇の「自由」を履き違えることは許されません。履き違えた自由と若さで取り返しのつかないことが、えてして、より多く自由が担保される夏休み



夏休みを迎えて

キャリアセンター部長

酒井 邦雄

学生の皆さんは23年度の春学期を終え、ほっとされていると思います。新入生の皆さんは大学生活にも慣れ、夏休みの楽しい予定に胸を膨らませていくでしょう。2年生はクラブ活動や勉強に熱中し、充実した大学生活を楽しんでいることでしょう。1・2年生の皆さん、将来の自分自身をイメージしてください。

ある人は希望する会社、あるいは職種で大活躍している自分をイメージするかもしれません。また、ある人は最近の就職状況の厳しさから、就職に対する不安から将来の自分自身をイメージできないと思うかもしれません。

キャリアセンターでは、皆さんがキャリア形成を考える手助けをします。秋学期には「キャリアデザイン」の授業があります。この授業では、将来の自分自身をイメージするための様々なツールを学びます。グループディスカッションを通して、見知らぬ人との関係作り、業界研究の仕方を学びます。また、企業訪問の準備をし、実際に企業訪問をします。様々な企業の人事担当者の話も予定しています。「インターンシップ」では企業の現場の厳しさと楽しさを味わえます。

「エクステンションセンター」では多くの資格にチャレンジできます。自分自身を磨き、鍛えることで、将来の自分自身をイメージしてください。3年生はSPIの勉強を本

格化してください。本学の学生はコミュニケーション能力に優れています。しかし、就職試験ではまずSPI試験があります。この試験に合格して、次に得意なグループディスカッションや役員面接になります。SPI試験に受からなければ、得意なコミュニケーション能力を発揮できません。4年生で、まだ就職が決ま



平成23年度支部懇談会盛況のうち全日程終了

今年も全国22会場で開催された支部懇談会は、全会場とも多数の後援会会員の出席のもと開催され、7月3日(日)をもって平成23年度的全日程が無事終了した。

本学を会場とした名古屋支部懇談会も多数の後援会会員の皆さんが出席し盛大に行われた。当日はけやきテラス3階のホールに溢れんばかりの出席のもと開催され、水野雄仁後援会会長・大野榮人学長の挨拶のあと、大澤俊彦心身科学部長による「健康長寿と食生活」をテーマに講演が行われ、講演後、教務・学生・キャリアセンターによる説明、住友不動産販売㈱に内定した法学部法律学科4年の金井浩高君による就職体験談の後、学部別に分かれそれぞれ熱心な話し合いが行われ、充実した懇談会となった。

心身科学部健康栄養学科

小学生向けにおやつ教室開催

7月9日(土)日進キャンパスにて、本学心身科学部健康栄養学科と日進市が共催で「みんなで学ぼう健康おやつ」が行われ、今回が3回目で行進市の小学生14人が参加した。

今回は健康栄養学科の学生たちが自主的に作ったサークル「ヘルス&フード」のメンバーも加わり、「お豆のミルクゼリー」を作った。

参加した学生も初めてお菓子作りを体験する小学生にわかりやすく、また言葉使いにも気を配りながら指導にあたった。

お菓子作りの間に酒井映子心身科学部教授から「ポテトチップス一袋は茶碗で3杯分のごはんと同じぐらいのカロリーがあるんだよ。」と、具体例を挙げてわかりやすく健康



康的なおやつへの食べ方について解説があった。

参加した小学生も「すごくおいしくできました。おうちで作るよりも、おいしくできそうな気がします。」と満足そうに語っていた。

薬学部衛生薬学講座佐藤雅彦教授らが「日本トキシコロジー学会・田邊賞」受賞

本学薬学部の佐藤雅彦教授(衛生薬学講座)が責任著者である下記論文が、第17回日本トキシコロジー学会・田邊賞の受賞論文に決定し、平成23年7月11日から13日に横浜で開催された第38回日本トキシコロジー学会学術年会において授賞式が執り行われた。

この田邊賞(年間優秀論文賞)は、日本トキシコロジー学会の機関誌である Journal of Toxicological Sciences 誌に1年間(平成22年1月~12月)掲載された原著論文の中から優れた論文、または将来性のある論文を発表した学会会員に贈られる賞であり、この度、愛知学院大学、山梨環境科学

研究所、鳥取大学、岐阜薬科大学、並びに岐阜大学の共同研究による原著論文「Resistance of metallothionein-III null mice to cadmium-induced acute hepatotoxicity」が選出され、本学からは佐藤雅彦教授、藤原泰之准教授、小室広明氏(修士2年)が受賞した。本研究は、メタロチオネイン-III遺伝子を欠損したマウスを用いて、カドミウム肝毒性性に対してメタロチオネイン-IIIが増悪効果を発揮することを示したものであり、メタロチオネイン-IIIの新たな機能解明とその将来性が高く評価されたものである。

戦略的の大学連携支援GP

公開講演会開催

本学が代表校として取り組んでいる平成21年度採択、文部科学省戦略的の大学連携支援GPで、去る7月9日(土)午後1時より日進キャンパスけやきホールにて、連携GP事務局である東名古屋地域生活習慣病指導教育連携センター主催として、公開講演会が開催された。

主催の本学・心身科学部客員教授・佐藤祐造委員長の挨拶のあと講演が行われ、講師に筑波大学大学院医歯学総合研究科・糖尿病内科教授・曾根博仁氏・新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科教授・遠藤和男氏・大阪経済大学人間科学部人間科学科教授・昇教授の3名を迎え、それぞれ「糖尿病およびその合併症の予防と生活習慣病」「事例教材(モジュール)を用いた専

門職連携教育(IPE)について」「学生に本場に役立つ教育をするために、援助のブローを育てるにあたって大切なこと」という演題で多岐にわたる講演が行われた。

講演内容は、寺内氏より、糖尿病について多因子遺伝と共に、食事や運動などの生活習慣(文化的背景)が深く関与しており、現場における具体的な生活習慣指導のため、その効果に関する科学的なエビデンスを基に講演があり、遠藤氏より、保健、医療、福祉の3分野の連携の必要性が言われてきたが、現場において専門職連携教育が保たれているとは言い難く、そこで学生に対して専門職連携教育(IPE)を取り入れている事例が紹介され、古宮氏より、援助者を育てるにあたって、教



平成23年度

古川学術研究振興基金研究費9名に交付

本年度の古川学術研究振興基金による学術研究費交付伝達式が6月14日(火)日進キャンパス学長室、6月15日(水)楠元キャンパス学院長室にてそれぞれ行われた。

平成23年度 古川学術研究振興基金研究費 申請者一覧

学部	職名	名前	研究課題	交付金額(円)
心身科学部	講師	内藤 正和	地域スポーツにおけるトップアスリート活用の可能性に関する調査研究	300,000
経営学部	教授	松原 敏浩	企業特性および従業員特性がワーク・ライフ・バランスに与える影響について一日・中・韓・台の比較研究	300,000
法学部	准教授	鈴木 伸智	アメリカ合衆国における同性婚の動向	300,000
総合政策学部	教授	岩田 和男	核家族化と家庭及び女性の役割の学際的比較研究ー超域文化政策的視点からー	300,000
薬学部	教授	河村 好章	Helicobacter cinaedi感染症の感染ルート解明に関する研究	300,000
歯学部	准教授	富士谷 盛興	ポリ酸系モノマーを骨格とするレーザー切削歯質専用接着剤の開発	150,000
歯学部	准教授	吉田 康夫	歯周病原性細菌由来代謝物のクォラムセンシング様作用の解明	150,000
教養部	教授	石川 雅健	沖縄の精神文化に関する研究	300,000
短期大学部	准教授	犬飼 順子	象牙質へのフッ化物の耐酸性効果	300,000



2011 就職戦線と キャリアセンター

東日本大震災における 影響

3月11日に発生した東日本大震災の影響で、全国規模の大手・有名企業はその採用手順の大幅変更を余儀なくされました。大きな変更点は、面接など直接学生とコンタクトを取ることが6月以降に延期されたということです。このため、5月から内定を出し始めた東海地区の中堅・中小企業は、自社が獲得した内定者を大手にだけ抜かれていくのかわからない（歩留まりがわからない）ため採用活動の長期化を視野に入れているようです。

6月20日（月）付の日本経済新聞では「団塊世代の大量退職に伴う大卒の採用枠は13・7%増加する」と報じられておりました。震災による採用の活動予定や時期の変更はありましたが、企業の採用活動には積極的な姿勢が見られます。

内定を獲得するために

この時期までに内定が採れない学生は、これ以降に求人情報をうまく手に入れることができるかどうかで就職活動の成否が決まってくる。情報各社の採用情報は「終了しました」が目につくようになってきました。大学に届く求人（求人ナビ・J-NET）などを中心にして、さらに就職活動でできた友達などからも情報を得ることが出来るようにアンテナを高く掲げ



活動してもらいたいと思います。

キャリアセンターでは4年生に対して、企業求人の紹介や役所などの機関の試験予定などを案内しています。また、専門のキャリアカウンセラーによる進路相談、履歴書、エントリーシートの書き方、模擬面接などもサポートしています。一人でも多くの学生が内定を獲得できるように、キャリアセンターを積極的に活用してもらいたいと思っています。

キャリアセンターの 取り組み

4年生の学生に企業への就職チャンスを増やすため、中小企業人材対策事業の一環として学内で「就職キャンパスin愛知学院大学」を7月4日（月）にけやきテラスで行いました。32社が参加し、会場にはキャリアカウンセラーのコーナーが設けられ、中小企業庁予算で派遣されてきたキャリアカウンセラーに内定獲得のサポートを行なっても

らいました。

また、毎年企画しています「卒業生と大学との交流懇談会」は8月26日（金）に予定しています。1部では合同企業説明会、2部では本学卒業生の社長や経営層の方々と始め、人事担当者にご臨席いただき、学生の採用の依頼はもとより卒業生同士のネットワークの輪を広げることが出来る機会を提供していきます。

1部の合同企業説明会では毎年内定につながるケースが多数ありますので、内定先が決まっていらない学生はぜひ参加して欲しいと思います。

キャリアセンターでは低学年次生へのサポートプログラムを作成し取り組んでいます。キャリアデザイン（2単位）は1・2年生秋学期から始まり、大学を卒業した後のキャリアについて自分自身で考えていってほしいです。社会人基礎力（考え抜く力、前に踏み出す力、チームで働く力）をつける為にグループワークを取り入れて研修し、企業情報やキャリアの仕方を学んだ



上で企業訪問を行ない直接企業の情報をキャッチします。さらに企業経営者や人事担当者をお招きして働き方などのお話を聞く機会を設けております。

また、2・3年生ではインターンシップ（2単位）を行なっています。春学期に履修登録をし、マナー研修、パソコン研修を行なった上で、夏季休暇には学校の代表として企業や役所などの機関で10日間の研修をします。社会人に接することにより、自己のキャリア形成と共に、将来歩むべき進路を見つける絶好の機会となると考えています。

そうした授業プログラムに加え、3年生の12月から始まる就職活動を勝ち抜く為には低学年時から基礎学力に加えスキルの向上を目指す必要があります。エクステンションセンターが用意している資格講座の中には、社会人になって企業や役所で働くときに必ず必要とされるスキルである日商PC検定試験・MOS試験（マイクロソフト）などのパソコン対策講座があります。また、志望する業界ごとに必要とされる能力、たとえば金融機関であれば簿記検定試験・証券外務員二種試験などの金融機関向けの対策講座なども開講しています。自分の志望する企業で、入社後に必要とされるスキルを入学前に先立って持つことで就職活動を有利に進めることが可能となります。

公務員受験について

景気低迷に伴い、公務員希望者が増加しています。昨年度



は昨年度に比べ約1・5倍の154名の合格者を出すことが出来ました。合格者増加の要因としては、エクステンションセンターで開講している公務員講座に加え、教養部の有志の教員の方々による試験対策、キャリアセンターにおける面接練習などを活用することによって結果が出たと考えられます。不況感が高くなればなるだけ公務員志望者が増えるといえます。公務員試験の受験者が増加する中、合格者を手に入れるには早めの準備が必要です。特に勉学の面では、行政職志望であれば1年次から徹底的に学力を上げていき、3年間で約1000時間の勉強時間が必要と言われているとあります。行政職・公安職共に筆記試験でいかに点数を獲得することが内定を勝ち取る上で重要となっています。

近年では、公務員試験の二次試験である「面接」では人物重視の傾向が強まっております。人物重視の比重が高まっております。試験勉強のほかにクラブ・サークルやボランティア、またアルバイトを経験するなど、人と接することでコミュニケーション能力を高めることも必要になってきます。公務員試験を突破するためには、勉強も課外活動も充実させることが重要といえます。

秋季総合テーマ「名作を通じた異文化理解」

開講日	講師	テーマ
10月22日(土)	恒川 由巳 薬学部准教授	薬を創り育てる —創薬、育薬、そして薬育—
10月29日(土)	宮澤 健 歯学部特殊診療科教授	笑顔を育む矯正歯科治療の実際
11月12日(土)	池田 豊應 心身科学部教授	社会性を育む
11月19日(土)	鈴木 伸智 法学部准教授	家族の法意識を育む —「家」的思考からの脱却—
11月26日(土)	稲垣 充廣 総合政策学部教授	コミュニケーション力を育む
12月3日(土)	田畑 康人 商学部教授	消費者を育む商学 —より賢い消費者を目指して—

お申込み・お問合せ

募集人員	350名 ※お申込み多数の場合は先着順ではなく抽選とさせていただきます。予めご了承下さいませ、お願い申し上げます。
受講資格	年齢性別不問
受講料	3,000円(資料代として)
申込受付期間	平成23年8月26日(金)～9月7日(水) 必着
申込方法	必要項目(氏名・住所・電話番号・FAX・年齢等)を記入した申込用紙を郵送するか、FAX・メールにて公開講座係まで送信してください
お申込み	〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12
お問合せ	愛知学院大学「公開講座」係 TEL: 0561-73-1111(代) FAX: 0561-73-9222 E-mail: koukai-k@dpc.aichi-gakuin.ac.jp

愛知学院大学

春季公開講座終了

総合テーマ「生物多様性と環境」と題し、5月28日（土）から毎土曜日全6回にわたり開催された春季公開講座が7月2日（土）に無事に全日程が終了し、各回とも多数の方が受講し、活気あふれる講座となっていた。

開講式には全6回の講座のうち4回以上出席の受講者には清水公開講座委員長より修了証書が手渡された。今回は403人の受講者のうち338人に修了証書が渡された。なお、同一テーマにて10月2日から12月25日までの毎日曜日に東海ラジオをキー局として、静岡放送・北陸放送からも配信。



2011年

研修シーズン到来!

夏休みに入ると本学の年中行事である夏期海外語学研修や、新入生対象の永平寺一夜参禅が行なわれる。また、ゼミやクラブ活動の合宿も盛んに行なわれます。貴重な人やモノとの出会い、青春を謳歌できるこの機会を有意義に活用して、自己研鑽につとめて下さい。

海外語学研修 永平寺参禅



Bond University ボンド大学

ホームステイを通じ、生活習慣を実体験

■大学紹介
1987年にオーストラリア初の私立大学として設立された大学。クイーンズランド州ゴールドコーストの閑静な住宅地ロビーチ地区に立地し、学生数は約2000人。世界47カ国から留学生を受け入れ、予備講座を行う付属機関として「ボンド大学付属英語学校」も開設。スポーツ施設をはじめ

め充実した設備と教育環境が整っています。
■周辺環境
ゴールドコーストの中心サファーズパラダイスまでは車で15分ほど。海岸沿いのリゾートには無数の高層ビルがそびえる一方で、大学は静かな住宅地に位置し、水辺と自然に囲まれた高層で美しいキャンパスです。
■期間
7月30日～8月22日(24日間)
■コース内容
ボンド大学付属英語学校による約80時間の英語授業と様々



University of Victoria ビクトリア大学

雄大な自然の中でのびのび英語にひたる

■大学紹介
ビクトリア大学は1963年の創立でバンクーバー島の南端に位置する清潔で安全、しかも眺めのすばらしいブリティッシュ・コロンビア州の州都にあります。大学キャンパスには、図書館・美術館・劇場・スポーツセンターなどの施設があり、研究面では特にアジア太平洋地域の研究が盛

んな大学です。
■周辺環境
カナダ最西端バンクーバーアイランドの中心地ビクトリアはイギリス文化が残るカナダ有数の観光名所です。大学構内や家・道路など街のいたるところに花が植えられ緑も多く、街の人々はとても親切で安全な街です。語学力・海外生活に自信がない人でもとても溶け込みやすい最適な環境です。
■期間
8月6日～9月5日(31日間)
■コース内容
英会話力向上のため授業をは

かのコースを延長して3週間半に渡って英会話の授業を行います。また、英会話以外の教養講座ではカナダの歴史・社会・経済・法律などの授業も行い、午後のアクティビティには、美術館や街に出かけてのプリティッシュ・コロンビア発見ツアーやホウエールウォッシングを行います。
English Language Centre
<http://www.uvic.ca/elec>
■引率者
子安和弘歯学部講師
小池悠太キリアセンター就職課職員



The University of Edinburgh エディンバラ大学

AGU語学研修開始時から伝説校で語学力UPを目指す

■大学紹介
1583年に創設された大学で、キャンパスは街の中心にある法・人文・医学・音楽・社会科学部などがあるオールド・カレッジと理系の学部が集まるキングス・ビルディングに分かれています。大学の誇る応用語学研究所は優れたスタッフと教材を揃えており、研究所主催の語学研修に

は世界各国の人たちが参加しています。
■周辺環境
中世を体感できる街エディンバラは、優雅で威厳を保つ天然要塞として名高いエディンバラ城を中心に、伝統・建築・史跡遺産が歴史の重みを感じさせます。また、興奮醒めやらぬフェスティバル(Military Tattoo)によって私たちを魅惑の中世へと導いてくれます。
■期間
8月13日～9月6日(25日間)
■コース内容
英会話を中心にイギリスの歴



7月5日(火)、午後12時50分より日進キャンパス本部棟3階大会議室において、平成23年度海外語学研修壮行会が行われた。
当日は、大野榮人学長、水野雄仁後援会会長の挨拶の後、国際交流センター事務局長より今回の引率者と参加者代表の紹介があり、各コースの団長の挨拶と各コースの学生代表が語学研修に向けての抱負を述べる挨拶があり終了した。異文化交流研修を十分に果たし帰国されることを期待します。



海外語学研修壮行会

※福井県にある曹洞宗大本山永平寺は、今から約770年前の寛元2年(1244)道元禪師によって開創された「日本曹洞宗」の第一道場出家参禅の道場です。
境内は約10万坪(33万平米)、樹齢約700年といわれる老杉に囲まれた静寂なたたずまいの霊域に、七堂伽藍を中心70余棟の殿堂樓閣が建ち並んでいます。
この静寂なたたずまいの中で説法を聞き、坐禅を行うなど、尊い修行体験を味得ることが出来ます。



永平寺一夜参禅が今年も8月3日から開催されます。
この行事は、本学の建学の精神「行学一体・報恩感謝」に基づく伝統の研修行事で、日々の行事の中で厳しく真理を追求した祖師の精神に少しでも触れることによって、勉学や社会生活に生かすことを目的としています。坐禅をとおして人間形成に資することにも、自立できる大学人となる一助として行われるものです。
《日程》
第1班 8月3日～4日
第2班 8月5日～6日
《参加費》
2000円



永平寺一夜参禅